昭和三年十一月十五日 第三種郵便物認可

昭和五年三月十五日　磐城中正新報　第三十一號　(一)

磐城中正新報

發行日　毎月一日　十五日
定價　一部　金拾錢
郵税共
廣告料　普通欄十二字詰一行　一回八十錢　場所指定　同二十錢增
發行兼編輯人　安澤榮作
印刷人
發行所　福島縣平町舊城跡四　磐城中正新報社

遞信省で四月から電報の取扱ひを變へて 經費廿二萬圓節約

遞信省では昭和五年度の不成立豫算編成に當つて既定經費から五百萬圓の天引節約を要求された結果現内閣の標語となつてゐる「公衆に迷惑の及ばない」範圍では如何にもならず其れが穴埋策として普通電報の受付時間とを短縮し四月一日より斷行して人件費から二十二萬圓を節約する事になつた普通電報の受付けは午後八時までを一時間短くして午後七時までとし普通電報配達の現在午後十二時過ぎに到着したものを翌朝に延ばして配達してゐたものを午後十時以後到着のものは翌朝廻しとする事になり其結果配置事務員配達夫の整理から二十二萬圓を浮かす由で極秘裡に各遞信局長宛に此れが實行方の手配を命じたと

地方稀に見る 私學の經營者 平産婆看護婦學校長 清野キヨ子女史

昨年仲夏夫君を喪ひ墳影未だ乾かず憂傷の中にも將來多大の苦難と闘はねばならぬ遠大なる使命の前に雄々しくも起たんとしてゐる女丈夫は清野キヨ子女史である、女史は本郡泉村に孤々の聲を揚げ幼にして敏、長する哉「小銃の響き遠ざかる」の歌を聯想し流血の山野に雄々しくも活躍する皇國の健兒と、傷ける勇士を介抱する我が赤十字看護婦の天職に思ひを馳せ尊き救ひの女神に憧憬れを持つた女史は小學を卒へる哉直に東都の專門校に入り優秀の成績を以つて卒業するや日本赤十字社特選看護婦として選定滿洲に特派され幾多病傷猛士に身命を堵して自己の天職を盡すと同時に得難き實驗を究め、歸鄕後は平南町に産婆看護婦會を組織し斯界の教育に殆んと全生命を捧げ幾多の優良なる産婆看護婦を社會に送つて其の天分を盡し酒生學業のある前半生を教育事業に盡した女史は今後益々斯業の擴伸に傾注と其に自重加餐後進の爲めに奮鬪努力を希ふものである

（寫眞は清野女史）

女史は多忙なる學校經營の傍ら婦道の研究に努め華道は小原流の奥儀を究め家元師範の免許狀を有し小原流の作法、茶の湯は裏千家の蘊奥を極め後輩の爲めに其の技を教授する等一として社會的ならざるはない、又昨年十月大阪市に開催の大日本産婆會へ本縣の代議員とし出席し重要問題の爲めに努力されしは世人の記憶に新なる所である

川井醫學士が 診療所開業

平産婆看護婦學校長清野キヨ子女史は本郡泉村に孤々の聲を揚げ幼にして敏、長する哉「小銃の響き遠ざかる」の歌を聯想し流血の山野に雄々しくも活躍する皇國の健兒と、傷ける勇士を介抱する我が赤十字看護婦の天職に思ひを馳せ尊き救ひの女神に憧憬れを持つた女史は小學を卒へる哉直に東都の專門校に入り優秀の成績を以つて卒業するや日本赤十字社特選看護婦として選定滿洲に特派され幾多の天職を遺憾なく發揮し後年校舎を新築し内容の充實と設備の改善刷新をはかり遂に平産婆看護婦學校に昇格したのである。此の間實に二十年現今の大成を見るまでの苦心と難事業中の最難學業たる私立學校を立派に築き上げたる手腕と熱力は男子の遠く及ばざる偉業は日の如く結核患者の診療に從事し患者よりは慈父の如く慕はれ地方より救の神と敬せられし醫學士川井重之氏は本月一日より平南町元大和田醫院跡に診療所を開業し夫人女醫安子さんと四科一般の診療に從事することになつた、氏は斯界稀に見る人格者で其の專門的手腕は一般の知る所で喋々の要はない安子夫人は女子醫專出身で七年間夫君を扶け結核患者の診療に從事の傍幾多の研究を重ね技倆の優秀なるは夫君と好一對の技術家である茲に川井氏夫妻の開業を祝福し其隆昌と進展とを祈つて擱筆す

赤井村の 果樹組合は 結局解散か

本郡赤井村果樹組合は昨年靜岡産の富士梨と競爭し石城梨を東京其他各方面へ無謀なる大輸送をなし遂に七千圓に近き大欠損を來し是が欠損額を組合員に割當てゐる補塡すれば梨の代金は一錢も組合員の懷に入らず最初組合組織當時發起人即ち組合幹部の説明した利益配當所の騒ぎでなく大問題となつたが組合幹部は他より一時借入金を爲し辻褄を曲りなりにも合せたが組合員は幹部一二名の横暴無責任と共同販賣上の一大欠陥を痛感し組合脱退者續出する模樣で何れ右の借入金返濟期以前に脱退者組の會合を催し組合の内容を公開し脱退を正式に聲明する筈である

縣社の祭典を 四月十七、八日に變更 櫻花爛漫の候に

平町縣社子鍬倉神社の例祭は毎年五月七、八の兩日に執行されてゐたが此の季節は農繁期に入り參拜人少く依つて今年から松ヶ岡公園の櫻花爛漫たる四月十七、八の兩日に變更し盛大に執行せんとの議盛んであつたが氏子總代其他の協議纏まり右兩日に變更方を其筋へ申請中なれば近日正式指令に接すべく公園の櫻花見物乍ら各地よりの人出多かるべ：隨つて平町は全力を擧げて種々催しを爲し遠來の客を誘引して町繁榮の一筋となすべく寄り〳〵協議中である

磐城佑賢學舍の 生徒募集

縣下私立學校の權威として社會の信用厚く且つ現代の儀表として世人の崇敬措かざる大人格者大和田豊吉先生の校長たる磐城佑賢學舍では例年の如く來四月より新學期開始に就き本科生百名、普通科第一學年生百五十名、同二學年生若干名を募集するが同校は地方の模範校として推奬されるだけに募集發表以前より各科共入學希望者多く締切期日の四月六日以前に滿員となるべく入學希望者は一日も早く申込むが得策であると

小川村の 紛擾解決

本郡小川村會議員の紛擾問題は遂に村議の總辭職と村長助役の引責辭職とで殆んと拾收し得ざる有樣となつた同村の紛擾問題に就き國井前同村長及縣議鈴木辰三郎氏の兩者が中間に立ち既往の行き懸りや感情問題一切を水に流し協力一致村治の爲めに盡瘁する事に申合せ懇親の宴を催し圓滿裡に落着した

不思議な數

一四二八五七と數は不思議な數である、二倍すと二八五七一四になるが數字が同であるばかりでなく其の順序も最初の一と四とが最後へ廻つただけである、三倍すると四二八五七一であやはり數字も順序も同じこと四倍の五七一四二八、五倍の七一四二八五、六倍の八五七一四二はいづれも同樣で、殊に六倍はもとの數の數字三つづつをそつくり置きかへたと同じことになるから何と不思議ではあるまいか

所がこの不思議の數も七倍するに及んでたちまちたゞの數になつてしまふから面白い、たゞといつても一寸變つてゐる、やつて御覽なさい九九九九九といふ數字になるから何んと不思議でありませんか

郷土愛數へ歌

小川郷　吉岡獨步

一つとや　人々互に睦み合ひ睦み合ひ　磐城の郷土を愛しませう愛しませう

二つとや　二箭山や新舞子新舞子　その外無數の山水美山水美

三つとや　水も自由に土地肥えて土地肥えて　磐城の産業は農本位農本位

四つとや　夜書堀り出す鑛山の　石炭粘土も無盡藏無盡藏

五つとや　磐城七濱豊漁で豊漁で　海水浴もよい處よい處

六つとや　昔の儘のお龍燈お龍燈　佛德輝やく閼伽井嶽閼伽井嶽

七つとや　勿來の關に來て見れば　古き歴史の花が咲く花が咲く

八つとや　やがて市となる平町平町　發展させたい商工業商工業

九つとや　高野玉山湯本町湯本町　温泉の恵みも有難や有難や

十とや　共に勵みて明かるくて明かるくて　住み能くするのが郷土愛郷土愛

最高の品質!!
最低の値段!!
の御用命は弊店へ
各官衙、學校、會社、銀行、
炭礦、鑛山　御用達

平町搔槌小路
仙臺屋靴店
主店　廣部勘太夫

銘酒
泥鰌
馬目支店
平田町
電話二五四番

市原醫院
平町田町（電話一一四番）
內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋毒　市原三三男
入院隨時

クリーニング
洗濯物の御用は弊店へ
御用命を願ひます
海老原洗濯店
平町搔槌小路

諸機械設計製作
据付工事全般
高木工業所
主任　高木秀治郎
平町南町四十七番地
電話二六九番
工場平町五丁目十五

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵
金物問屋㊀釜屋商店
電話九番　一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊀の生命なり

生徒募集
一、本科生一百人
一、普通科第一學年百五十人
一、普通科第二學年若干名
一、願書提出期限四月六日
右募集す
磐城佑賢學舍
電話七一〇番

作刻
方圓堂
三千

開業廣告
今般左記ノ通リ開業致候間此段謹告候
昭和五年三月一日
專門　內科一般
宅診
往診
時間　午前七時より午後十時迄
但し急患はこの限りにあらず
平町南町六五（元大和田耳鼻科跡）
川井內科診療所
電話七二二番
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

生徒募集
本科五十名
裁縫專修科百名
師範科五十名
專攻科三十名
文部大臣認可
藤田女學校
（平町）
願書　三月三十日限り
湯本藤田女學校並に江名藤田女學校學則は別に之を定む

第廿四回生徒募集
一、卒業ハ産婆看護婦兩科ヲ通ジテ一ケ年
申込期日四月八日迄
平町南町七六
平産婆看護婦學校
校長　清野キヨ
電話三〇七番

生徒募集
本科第一部　二ケ年卒業五十名
本科第二部　三ケ年卒業五十名
技藝高等科　二ケ年卒業五十名
仝　專攻科　一ケ年卒業三十名
右各科共入學ヲ許可ス希望者ハ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ三月末日マデニ本校宛提出ノコト
◎四月四日午前十時入學式學行
◎學則請求ノ方ハ郵券二錢封入ノコト
文部大臣認可
平陽女學校
平町搔槌小路（電話四四五番）